

1年のNPOでの活動、バスツアーを経験して

活動先：NPO 法人 地域福祉サポートちた

クラス：原田 正樹 先生

1. 自分の成長と気づき

サービスマーケティングを受講することに決めたものの、最初のころは何を学んでいくものなのかわからなかった。このサービスマーケティングは単にNPOに出向き、その方針に従うまま活動を行っていくものではなく、方針に基づいて自分たちが先方にメリットのある活動計画を考えなければならないというのはかなり難しいものであった。

このサービスマーケティングを受講する前まではNPOというものが何なのか、その地域に対してどのような役割を果たしているのかはあまり興味がなく、近くに多くのNPOがあるにも関わらず、行こうとも思わなかった、またどのような人が活動を行っているのかさえ考えもしなかった。しかしそのNPOに出向ききっかけを与えてくれたのがこのサービスマーケティングであった。

今回のサービスマーケティング受講中に多くのNPO団体を回った。そして夏休みの活動では数ヶ所の各々で、そのNPOの設立経緯や活動内容、利用者の特徴などをインタビューという形で聞かせていただいた。そんななか現場体験させていただいたところもあった。NPO団体はそれぞれ活動内容が異なっており、NPOはどのような人でも必要に応じて利用することができる。

しかしどのNPOにも共通して言えることがある、それは男性の利用が少ないということである。確かに今回の活動で回ったNPOが知多半島にあるNPOの全てではないが性別によってその利用に差があるのは事実であると考えられる。そして男性の利用者を増やしたいと思っているところもあった。

最初のころはNPOについてあまり興味がなかったが、このサービスマーケティングを通してNPOの存在はその地域で暮らしてくる人たちにとって、どのようなものなのか徐々にわかってきた。NPOは困っている人や1人で暮らしていて誰かと関わる機会の少ない人にとって大切な場所であると感じた。このような人がNPOを利用することにより人と接する機会が増え、それが生きがいへと繋がっていくことにもなる。

サービスマーケティングの夏休みの活動を計画するときにはほとんどのことを任せてしまい自分はいわれたことだけをやるだけであったが、実際に夏休みにNPOに訪問しに行くときに質問の内容を考えたり、アンケートの質問項目を考えたりと少しずつ自分から動くことも増えてきて、サービスマーケティングにやりがいが出てきた。そして後期には夏休みで活動したことをプレゼンするというので、2人でそれに向けての原稿を仕上げている。

誰かと分担して何か1つのことに取り組むということとは、1人で作業するときよりも団結力が必要になる。どこを誰が分担するのか、そしてそこを任せられた以上責任を持って仕上げなければならない。

夏休み前はこれらのことがあまりできていなかった。しかし夏休みからの活動を通して

徐々に自ら考えて行動できるようになった。今まで1人で研究をしてそれについてまとめるといようなことはあっても。今回のような2人以上で研究をすることはほとんどなかった。そしてそのうえで大切なことは他の人とのコミュニケーションが大切でありそれを円滑にしていくためには会話が一番大切なことであると思った。

2. この活動を通して見えてきた地域活動や地域課題

前項でも述べたようにインタビューやボランティア、バスツアーやらせていただいたところの多くは男性の利用が少なく、ほとんどが女性の利用であった。またその認知度にも格差があった。比較的近くにあるにも関わらず、そのNPOの存在をあまり知られていないNPOもあれば、その地域に住んでいる人だけではなく、他の地域、他の都道府県の人にも知られているところもある。そしてNPO自身も認知度を上げたいところもあれば、そうでもないところもある。

NPOは年齢・性別問わず利用できる場所である、しかし子どもや青年など若い世代の人の利用がまだ少ないような気がする。学校や会社などでNPOを利用する時間が取れずに、またその存在すら知らない可能性もある。むしろそのような忙しい人たちがNPOのことを知り、利用したいと考えたときにすぐに利用できるNPOがあれば、そのような人たち同士、気の合う話もできる。気軽に利用できる空間があればいろんな利用者も来る。

また利用してもらうためには、まずNPOのことを知ってもらわなければ意味がない。そして各NPOが自分のところを知ってもらいたいと考えているのならその地域で、行っている祭りなどのイベントに参加をして自分たちの行っている取り組みを紹介するなど。お祭りなら他の地域からでも人は集まってくることもあるし、より多くの人に知ってもらうことに関しては一番効率よいやり方であると考え。そしてその場で名前や事業内容を知ってもらうことにより、後から自分で興味を持ったNPOを調べようと思ったときに調べやすくなると思うし、名前を知っているのと知らないのとではそのNPOにもてる関心度が全く異なってくると考える。

忙しい人たちにも公平に利用してもらうためには、NPO自体の営業時間も工夫しなければならない。学校がある子どもたちは昼間、家にはいない。また会社勤めの人たちは夜、深夜まで帰らないこともある。そのような人たちには今のままじゃNPOを利用することは物理的に不可能である。そこはNPOも臨機応変に週一回は夜間にオープンしてみるとか、土日休日にオープンしてみるとか、若い人たちが気兼ねなく利用できるような空間にしてみるとかなど、そのような人たちのニーズに合わせていくことも必要であると考え。活動は目的があって初めて結果につながることを教えてくださって、また活動中は不甲斐ないわたしに手厚いご指導をいただき誠にありがとうございました。